

屋久島生態系モニタリング

屋久島西部の植生垂直分布調査 (平成21年度調査)

* 標高200mプロットの植生

プロットの局所地形は山腹下部の平衡斜面で、平均斜面方位は北西向きである。この付近は樹木の生長のよい照葉樹林になっていて、付近にはマテハンやウバメガシの大径木や株立木などが見られる。なお、ヤクカやヤクガルの生息数が多く、ヤクガの摂食によって下層植生が単純化している。

【高木層】マテハン・サカキが最も多く、モクダチバナ・ヤブツバキ・イサガシ・ハリハリキ・タイミンチバナや、個体数は少ないがフカキ・ヤブツバキ・クワネモチ・アデクが生育している。出現する樹種が多く、植被率も高い。なお、外来種のアブラギリが1本生育しているが、亜高木層以下での生育は確認されていない。**【亜高木層】**タイミンチバナ・サザンカ・サカキ・ヤブツバキ・ハリハリキ・ヒサカキ・マテハンが生育し、個体数は少ないがアデク・サクラツツジ等も出現する。**【低木層】**ヒサカキが最も多く、サザンカ・タイミンチバナ・ヤブツバキ・モクダチバナ等が混生している。以前多く見られたホトチヨウジはヤクガの摂食により1本に減少した。植被率は低い。**【草本層】**ほとんどの小プロットに出現しているものは、サザンカ・ハリハリキ・シラタカスラ・ホリハカワラビ・センヨウ・カツモウイテである。**【群集および標微種】**マテハン・ヒサカキ群集と認められる。また、特徴的な樹種(標微種)は、亜熱帯性のフカキ・ホトチヨウジ・アデクをあげることができる。**【前回(平成16年度)との比較】**階層ごとの優占種、樹高、植被率の変化を見ると、前回からの変化は見られないが、亜高木層だったモクダチバナ・イサガシ・ハリハリキなどが高木層へと成長し、その影響でマテハンやサクラツツジ、フカキなどの亜高木層が被圧されてきた。また、前回低木層だったタイミンチバナの多くが成長して亜高木層へと移行し、草本層だったヒサカキやアデクが低木層へと移行している。ただし、下層植生の構成種がヤクガ嗜好種から非嗜好種に変化していた。

休養林(一四日、屋久島自然谷)の今後は、地元の活用による管理と、地元関係者の協力によるモニタリング調査を実施する。また、環境保全のため、調査ルートを整備し、整備されたルートで調査を行う。また、調査ルートを整備し、整備されたルートで調査を行う。また、調査ルートを整備し、整備されたルートで調査を行う。



現地検討会の様子

観望の景色は、古くから知られており、観光客の多くが訪れる。また、古くから知られており、観光客の多くが訪れる。また、古くから知られており、観光客の多くが訪れる。

屋久島自然休養林検討会 危険木点検の実施

三月二日、関係者及び地元住民の参加で開催された。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。

熊本市で地杉セミナーを開催

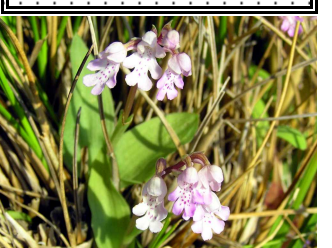
この日は、熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。

熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。



熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。

屋久島の植物



オキナワチドリ (ラン科)

九州南部から沖縄の分布。高さ約10cm。花は淡紫色。葉は長楕円形。花期は3月。オキナワチドリ (ラン科)

熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。熊本市で地杉セミナーを開催した。



ヤクスギランドでの危険木調査

保全センターの人の動き

四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。

四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。

四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。四月一日付け転入。四月一日付け転出。

**屋久島レク保護管理協議会
総会（三ヶ月期）の開催**

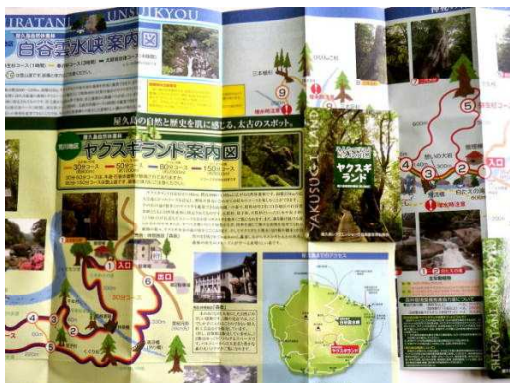
三月二十八日、屋久島離島開発総合センターにおいて、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の三ヶ月期総会が開催されました。

総会では、平成二四年度事業計画及び収支予算、規則等の改正について協議し、提案どおり承認されました。また、自然休養林（ヤクスギランド・白谷雲水峡）の利用状況や長期収支見通しの報告があり、管理運営が順調に実施されていることを確認しました。

なお、平成二三年度事業実績及び決算については、七ヶ月総会で承認された後公表されることとなります。

レク森散策用新パンフレット

白谷雲水峡・ヤクスギランドの両方を利用され、環境保全協



力金を拠出していただいた方を対象に、新たに写真のような手のひらサイズの折りたたみパンフレットを作成しました。カラフルで分かり易い内容となっておりますので、是非ご活用下さい。

屋久島国立公園独立

屋久島の国立公園地域と口永良部島の全域が、霧島屋久国立公園から分離し、新たに「屋久島国立公園」として誕生しました。これを記念して、（三月二〇日）地元議員、関係行政機関、観光業界等が出席の下、記念セレモニーが開催されました。

屋久島国立公園の独立は、地域の活性化等へ繋がるきっかけであると同時に、かけがえのない屋久島の自然を未来へ引き継ぐため、これまで以上に重い責務を背負うことになったとも言えるでしょう。



関係各機関においては、今後も生態系維持回復事業計画や新たな世界遺産地域管理計画に基づき、ヤクスギ力対策等の生態系の維持又は回復を図るための事業や、世界遺産地域等の保全を図るための各種施策を実施していくこととしています。

ヤクスギ力好き嫌い図鑑の完成

二ホンジカは近年全国各地にて、その生息数増加に伴う食害により様々な問題を引き起こし、ここ屋久島も同様の状況にあります。屋久島は、二ホンジカの亜種ヤクスギ力が生息しており、西部林道等では、同じ在来の哺乳類ヤクザルとともに過ごしている姿が見られ、一見のどこかほほえましい光景を見せてくれます。

しかし、その実態は、かつての生息数よりはるかに増加した生息密度となっており、天然林や人工林等の森林域では、下層植生へ過度の採食圧をかけ、また、樹皮の剥皮や角研ぎにより樹勢を衰えさせます。更に進むと、樹木の病害虫や気象害への抵抗力が低下して衰弱・枯損する可能性が高まると考えられます。

遺産地域の価値を将来に引き継いでいくためには、生息密度や植生の回復状況等を常にモニタリングしながら、被害を未然に防ぐ植生保護柵の設置、有害鳥獣捕獲等を実施する等順応的



自に作成しました。ヤクスギ力が好きな植物、嫌いな植物を既存の文献のほか各地における情報等を参考に、現時点で確からしい情報としてとりまとめました。以上（中略、以上）まえがきより

管理の下で、適正な頭数管理を進めていく必要があります。しかし、これらの対策はまだ始まったばかりです。今回シカ害対策の一助とするため、「ヤクスギ力好き嫌い植物図鑑」を屋久島森林環境保全センターが独

抜粋）この図鑑は、解説編と図鑑編に分かれており、携帯に便利ながら、屋久島森林管理署で取り組むシカ対策に活用していくこととしています。

屋久島の野鳥

新コーナー！

《ホオジロハクセキレイ》
日本で確認されているハクセキレイ6亜種のうちのひとつ。最も普通に見られる亜種ハクセキレイとは、顔全体が白いことで、容易に区別ができます。

屋久島には旅鳥として渡来し、主に耕作地等の開けた環境で観察できます。春の渡りに当たる3〜5月、ハクセキレイの群れを見つけたら、周りとは少し違ったこの子が混じっているかもしれません。

